

土木学会木材工学委員会



土木学会は、「木材工学委員会」を2012年に発足し、土木分野での木材利用拡大を目指した活動を展開している。全国各地でのシンポジウム・発表会の開催や木材利用の最新情報などをまとめた書籍の出版による情報発信活動を実施しているほか、「CO₂収支評価研究」「木橋の新技术に関する研究」「地中使木材の耐久性と耐震性研究」「木製

木材を利用した場合の環境的評価や工学的な研究を推進している。土木はその名が示すとおり、本来「土」と「木」を活用する技術だが、高度経済成長期以降、木は土木材料としてあまり使われていない状況が続いている。しかし近年は、温暖化抑制効果やアメニティ効果など、木材の持つ優位性が見直され、土木分野への導入や木材を使用した地盤改

ほか、全国の木橋を管理する自治体との共催で、木橋の維持管理や観光資源としての活用について話し合う場である「全国木橋サミット」も開いており、26年度は10月15、16の両日に京都府京丹後市で開催する予定だ。

木製土木資材に関する研究小委員会では、道路・鉄道などで活用される木製ガードレールや木製遮音壁、木造駅舎、木製舗装駐車場など、広く土木分野での木材利用拡大に向けた活動を展開している。

建設資材に関する研究」などの小委員会を設置し、さまざまな活動を展開している。また、日本森林学会、日本木材学会と共同で「土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会」を立ち上げ、気候変動緩和策・適応策への貢献という同一の視点で土木分野における木材の利用拡大の推進を図るとともに、土木材料に

良や近代木橋など新たな技術開発の試みも進められている。小委員会のうち、CO₂収支評価研究小委員会では、木材利用の温暖化対策への効果を定量的に把握することを目的に活動している。木橋の新技术に関する研究小委員会では、新技术の研究開発や既存木橋の耐久性調査などに取り組んでいる

ことで、木材に対する負のイメージを払拭し、木材の地中利用を促進することを目的に、25年度に発足した。過去の地震における木杭の被害文献調査や地中使木材の耐久性に関する基礎実験などに取り組んでいる。25年度に実施した1964年新潟地震を対象とした文献調査では、対象杭235件のうち、被害の有無

が明記された杭のうち被害なしと記された杭の85・7%が木杭であり、被害ありとされた杭の多くはコンクリート杭であることなどを報告している。

木材利用拡大向け研究成果発信

土木学会は、「木材工学委員会」を2012年に発足し、土木分野での木材利用拡大を目指した活動を展開している。全国各地でのシンポジウム・発表会の開催や木材利用の最新情報などをまとめた書籍の出版による情報発信活動を実施しているほか、「CO₂収支評価研究」「木橋の新技术に関する研究」「地中使木材の耐久性と耐震性研究」「木製

良や近代木橋など新たな技術開発の試みも進められている。小委員会のうち、CO₂収支評価研究小委員会では、木材利用の温暖化対策への効果を定量的に把握することを目的に活動している。木橋の新技术に関する研究小委員会では、新技术の研究開発や既存木橋の耐久性調査などに取り組んでいる

ことで、木材に対する負のイメージを払拭し、木材の地中利用を促進することを目的に、25年度に発足した。過去の地震における木杭の被害文献調査や地中使木材の耐久性に関する基礎実験などに取り組んでいる。25年度に実施した1964年新潟地震を対象とした文献調査では、対象杭235件のうち、被害の有無

が明記された杭のうち被害なしと記された杭の85・7%が木杭であり、被害ありとされた杭の多くはコンクリート杭であることなどを報告している。

土木学会は、「木材工学委員会」を2012年に発足し、土木分野での木材利用拡大を目指した活動を展開している。全国各地でのシンポジウム・発表会の開催や木材利用の最新情報などをまとめた書籍の出版による情報発信活動を実施しているほか、「CO₂収支評価研究」「木橋の新技术に関する研究」「地中使木材の耐久性と耐震性研究」「木製

良や近代木橋など新たな技術開発の試みも進められている。小委員会のうち、CO₂収支評価研究小委員会では、木材利用の温暖化対策への効果を定量的に把握することを目的に活動している。木橋の新技术に関する研究小委員会では、新技术の研究開発や既存木橋の耐久性調査などに取り組んでいる

ことで、木材に対する負のイメージを払拭し、木材の地中利用を促進することを目的に、25年度に発足した。過去の地震における木杭の被害文献調査や地中使木材の耐久性に関する基礎実験などに取り組んでいる。25年度に実施した1964年新潟地震を対象とした文献調査では、対象杭235件のうち、被害の有無

が明記された杭のうち被害なしと記された杭の85・7%が木杭であり、被害ありとされた杭の多くはコンクリート杭であることなどを報告している。

たい」と呼び掛けた。

5月19日に東京都新宿区の土木学会講堂で開いた第16回木材利用シンポジウムであいさつに立った佐々木貴信委員長は「建設業界でも温室効果ガス排出量についての関心は高く、木材に限らずさまざまなCO₂削減の取り組みが進んでいる。木材の長所をもっと生かすことでカーボンニュートラルに貢献できると考えているので、その点をどんどんアピールしていきながら委員会に参加してもらえる人をもっと増やしていきたい」と呼び掛けた。